

# 秋田職能短大

# 節目迎え「新たな未来へ」

技術者輩出  
2千人超

歴史振り返り発展誓う



約80人が出席し、30年の歩みを振り返った記念式典  
(プラザ杉の子)

大館市の秋田職業能力開発短期大学校(後藤康孝校長)の創立30周年記念式典は13日、同市のプラザ杉の子で行われた。県や市、同大、関係機関・団体から約80人が出席。記念講演・祝賀会も開き、ものづくりに携わる人材の育成・輩出を続けてきた歩みを振り返りながら、さらなる発展を誓い合った。

## 創立30周年記念式典

式典で同大を運営する高齢・障害・求職者雇用支援機構の鈴木一光理事は「30年間、技能・技術、知識だけでなく、コミュニケーション能力を身につけたものづくりのプロとなる実践技能者を育成し、送り出してきた。今後も地域の産業界に必要とされる人材の育成に取り組む。この地域で必要とされる存在であ

るよう誠心誠意努力していきたい」とあいさつした。

来賓の福原淳嗣市長は「この30年間でもものづくりの環境は一変した。世界に向けて日本のもものづくりを発信する

中、秋田職能短大の果たす役割は大きい。もっと連携しながら新しい未来を作っていきたい」と祝辞を述べた。

続いて同窓会「杉風会」が

記念品を贈呈。シダレザクラ3本で、来年春に同大敷地内で記念植樹を行うことになっている。動画で30年の歩みも振り返った。

講演会では元中央労働委員会事務局長で、職業能力開発行政に詳しいポストンコンサルティンググループのシニア・アドバイザー、吉本明子さん(東京都)が「これからの人材育成とダイバーシティ」と題して、これからの人材育成等について語った。

日本は企業の人材投資の割合が低いというデータを示し、リスキリング(技能の再習得)の重要性を指摘。「企業経由が中心となっている在職者支援を、自律的なキャリア形成を促すため個人への直接支援に組み直す必要があるのでは」と述べた。

大館市清水にあった秋田技能開発センターが改組して、北鹿地方で初の高等技術教育機関として1993年4月に誕生。生産技術、電子技術情報処理、住居環境、産業デザイン、の5学科で開校し、現在は生産技術、電子情報技術、

住居環境の3学科。卒業生総数は2351人を数える。在職者の技能・技術向上のための短期講習「能力開発セミナー」も長年開き、受講者数は延べ5000人超に上る。